



巻頭言

岩手医科大学副学長・歯学部長
岩手医科大学歯学会会長
三浦 廣行

この度、岩手医科大学歯学部開設50周年を記念して、岩手医科大学歯学雑誌特別号を刊行いたしました。

岩手医科大学歯学部は、1965年東北・北海道初の私立歯科大学として設置認可されました。歯学部の開設が認可された折、当時の学長篠田糺先生は、「岩手医科大学は、これで頭のとっぺんから足の爪先まで診ることができる。県民に大いに尽くせる。」と喜んだといわれています。

以来、歯学部は、医育機関として、最新の歯科医学、歯科医療、医学研究の教育と実践を進め、国民の負託に耐える多くの優秀な歯科医師を国内外に送り出してきました。さらに、社会や人口動態の急激な変化を鑑み、関連医学教育の充実、多職種連携教育、学外連携プログラム、ハーバード大学との締結を核に歯学部改革プロジェクトの実行など、時代に即応した歯学教育を通して、超高齢社会のニーズに応えられる歯科医師の養成を行ってまいりました。

岩手医科大学歯学部は、2015年に開設50周年を迎えましたが、2017年に予定されていた岩手医科大学創立120周年記念事業との兼ね合いから、歯学部単独での50周年記念事業は行わず、今回の記念特別号を発行することになりました。

本号の内容は、1)各講座 分野の歴史(沿革、歴代教授)、2)各講座 分野の最近10年間の歩みと現状(教育面、臨床面、研究面)、3)各講座 分野の人事(令和元年5月1日現在)、4)各講座 分野の最近10年間の業績ならびに主

な表彰となっております。

記念誌の発行にあたり「飲水思源」という北周の詩人・瘞信の「徵調曲」という詞に基づく故事成語を添えたいと思います。「飲水思源」とは「その実を落とす者はその樹を思い、その流れに飲む者はその源を思う」と、物事の基本を忘れないという戒めの語であるというのが基本的な解釈ですが、「水を飲むときは井戸を掘った人の苦勞に感謝する」といった他人から受けた恩を、先人の労苦を忘れてはいけないという戒めの語として使われることも多いようです。

記念誌は、これまでの活動の歴史と情報の宝庫ともいえます。多くの教員の想いや思い出、夢、理想、そして苦勞や苦悩が、一方では、何かを成し遂げた喜び、講座分野が充実・発展していく喜びも数多く綴られていることと思います。

記念誌のもつ意義は、多くの人々の思いを次の世代に伝えるとともに、先人の労苦に感謝する機会を与えてくれることにあると思います。岩手医科大学歯学部の皆様は、共に学び切磋琢磨してきた事を基盤に、それぞれの置かれた立場で見事に開花してこられました。

社会や人口動態が急激に変化し、歯科医学、歯科医療や歯科医療技術の進歩が目まぐるしく展開してゆく昨今、この度発行されました記念誌に「飲水思源」を求め、岩手医科大学歯学部開設50周年を期に、多くの関係の皆様のご意志に新たなエネルギーを注ぎ込み、時代に即応した歯学部卒業生として益々発展されることを祈念いたします。